

地域ケア推進会議 報告書

【医療・介護連携に関する場合のみ】

提出日	2023年7月10日
作成 高齢者支援センター	堺第2
作成者	柳原 順子

1.開催日時	2023年6月29日	(木)	18:30	～	20:30
2.会場	小山市民センター ホール				
3.主催センター	堺2				
4.参加人数	36人				
5.参加者内訳	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者支援センター 6人		<input checked="" type="checkbox"/> 医療と介護の連携支援センター 2人		
	<input checked="" type="checkbox"/> 医療関係者 11人 (うち、医師 1人)		<input checked="" type="checkbox"/> 介護事業者 14人		
	<input type="checkbox"/> 民生委員 人	<input type="checkbox"/> 老人会 人	<input type="checkbox"/> 住民 人		
	<input type="checkbox"/> 町内会自治会 人	<input type="checkbox"/> 警察 人	<input type="checkbox"/> 行政 人		
	<input checked="" type="checkbox"/> その他 (まちだ福祉〇ごとサポートセンター堺 3名)				
6.開催テーマ	おひとりさまでも安心して最期を迎えられる地域にするには				
7.地域課題	<p>(1) 課題設定の背景</p> <p>2022年4月に身寄りの全くない方が救急搬送され、他市の病院でお亡くなりになる案件が発生した。未払金や家の片づけ等を巡って、サービス事業所、大家、地域住民から様々な相談が支援センターに寄せられ、身寄りがない方の死後事務が委任されていなかったことで、地域の支援者に大きな負担が強いられることがセンターにて再認識された。</p> <p>(2) 検討した地域課題</p> <p>前回までの会議にて、身寄りのない方へ早期に、今後利用を検討した方がよい制度・サービスについて考えていただくためには、地域住民が「わかりやすく手に取りやすい資料」作成と、啓発活動が必要であるとの結論に至った。</p> <p>一方で、地域住民が自身の最期について向き合い・考える場を構築するには、支援者である専門職自身が「自分ごと」として捉えることが重要であるが、学ぶ機会や研修がなかった。</p>				
8.会議の内容	<p>前回会議までの振り返りと開催趣旨説明を行う。</p> <p>医療と介護の連携支援センターからのACP説明後、グループに分かれて、もしバナゲームを用いたACP疑似体験を行った。ワーク1ではさまざまな制限がある中での選択、ワーク2は制限のない自由な選択を体験し、それぞれ感じたことをグループ全体で発表した。ワーク1を進める中で周りの発言に感化され、ワーク2では同様の意見にまとまった形での発表が続いた。その時その時で得られた情報の中で、「想いは常に変わりうるものであることを体感し、全体の参加者で共有を行った。</p> <p>今後、地域住民(主に身寄りのない方)に向けて、「わかりやすい・手に取りやすい資料(作成予定中)」にて説明をしていくにあたり、配慮すべき点についてグループワークで検討した。「自分ごととして捉えられえりやすいようなチャート資料が用意できるといい。」「想いは変わらるので1回書いて終わりではなく、定期的に見直し、書き換える日を作る。」等意見が出た。</p>				
9.課題に対する対応策・今後の地域での展開	<p>「おひとりさまの場合、これから利用検討をした方がよい制度・サービスを説明する資料(チャート図など用いた、わかりやすいもの)」作成に向けて準備を進めていく。</p> <p>次回会議までに出たアイデアをもとに、原案作成していく。</p> <p>本人や家族の変わりゆく想いを定期的に確認しやすくしていくため、堺第2エリアとして「ACPの日」を活用していくことについて、今後検討していく。</p>				
10.その他	地域住民向け「終活」講座を今年度10月に開催予定あり。				

医療と介護の連携支援センター 確認日

7月 10日